

デーヴォ ガイド



2024.8.12～18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



22:12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカヤの子アクボル、書記シャファン、王の家来アサヤに次のように命じた。

22:13 「行って、この見つかった書物のことばについて、私のため、民のため、ユダ全体のために、【主】を求めよ。私たちの先祖たちがこの書物のことばに聞き従わず、すべて私たちについて記されているとおりに行わなかったために、私たちに向かって燃え上がった【主】の憤りが激しいからだ。」

22:14 そこで、祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、女預言者フルダのもとに行った。彼女は、ハルハスの子ティクワの子である装束係シャルムの妻で、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らが彼女に伝えると、

22:15 彼女は彼らに答えた。「イスラエルの神である【主】はこう言われます。『あなたがたをわたしのもとに遣わした人に言え。

22:16 【主】はこう言われる。見よ。わたしは、ユダの王が読み上げた書物のすべてのことばどおりに、この場所とその住民の上にわざわいをもたらす。

22:17 彼らはわたしを捨て、ほかの神々に犠牲を供え、自分たちのすべての手のわざで、わたしの怒りを引き起こした。こうして、わたしの憤りはこの場所に燃え上がり、消えることはない。』

22:18 【主】を求めるためにあなたがたを遣わしたユダの王には、こう言いなさい。『あなたが聞いたことばについて、イスラエルの神である【主】は、こう言われる。

22:19 あなたは、わたしがこの場所とその住

民について、これは恐怖のもととなり、ののしりの的となると告げたのを聞いた。そのとき、あなたは心を痛めて【主】の前にへりくだり、自分の衣を引き裂いてわたしの前で泣いたので、わたしもまた、あなたの願いを聞き入れる——【主】のことば——。

22:20 それゆえ、見よ、わたしはあなたを先祖たちのもとに集める。あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所にもたらす、すべてのわざわいを見ることはない。』」彼らはそれを王に報告した。

神の民でありながら、北のイスラエルも南のユダも主に反逆し、その結果として警告どおりの苦難を招くことは決まっていました。それはすでに避けられない未来なのです。

しかしそのような流れの中でも、ヨシヤのように主に従うなら「わたしがこの場所にもたらす、すべてのわざわいを見ることがない。」と、主からのあわれみをいただくことができます。時代や周囲がどれほど主のみこころから離れていても、私たちが主に従うなら、決して無駄ではないことを知りましょう。

宗教改革による王国のきよめは、功労者としてはヨシヤが目立ちますが、ほかにもこの女預言者フルダなどが用いられたことも忘れてはなりません。これまで多くの預言者が国へのさばきを伝えて王の機嫌をそこね、殺される者さえありました。彼女は保身よりも主のみこころを第一にしたのです。

主のために生きるなら必ず信仰の同志も与えられて、主のためになれることを期待しましょう。また自分自身が主のために立ち上がった人を助けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13日 火曜

列王Ⅱ

23:1 王は使者を遣わして、ユダとエルサレムのすべての長老たちを彼のところに集めた。

23:2 王は、ユダのすべての人々、エルサレムのすべての住民、祭司と預言者、および下の者から上の者まで、すべての民とともに

【主】の宮に上り、【主】の宮で見つかった契約の書のことをすべて彼らに読み聞かせた。

23:3 それから王は柱のわきに立ち、【主】の前に契約を結び、【主】に従って歩み、心を尽くし、いのちを尽くして主の命令と証しと掟を守り、この書物に記されているこの契約のことは実行することを誓った。民もみなこの契約に加わった。

23:4 王は大祭司ヒルキヤと次席祭司たち、および、入り口を守る者たちに命じて、バアルやアシェラや天の万象のために作られた祭具をことごとく【主】の神殿から運び出し、エルサレムの郊外、キデロンの野でそれらを焼き、その灰をベテルへ持って行った。

23:5 彼はまた、偶像に仕える祭司たちを取り除いた。ユダの王たちが任命して、ユダの町々やエルサレム周辺の高き所で犠牲を供えていた祭司たちである。バアルや太陽や月や星座や天の万象に犠牲を供える者たちも取り除いた。

23:6 彼はまた、アシェラ像を【主】の宮からエルサレム郊外のキデロンの谷に運び出し、それをキデロンの谷で焼いた。それを粉々に砕いて灰にし、その灰を共同墓地にまき散らした。

23:7 さらに、【主】の宮の中にあった神殿娼婦の家を打ち壊した。そこでは、女たちがア



シェラ像のために覆いを織っていた。

23:8 彼はユダの町々から祭司たちをみな連れて来て、祭司たちが犠牲を供えていたゲバからベエル・シェバに至るまでの高き所を汚し、門にあった高き所を打ち壊した。それは町の長ヨシュアの門の入り口にあり、町の門に入る人の左側にあった。

23:9 高き所の祭司たちは、エルサレムの【主】の祭壇に上ることはなかったが、その兄弟たちの間で種なしパンを食べていた。

ヨシヤ王は自分が指導者であることを主のために用いて、「すべての長老たち」を集めて「主の宮で見つかった…契約の書を…読み聞かせ」しました。誰でも自分が影響を与えられる人がいるものです。大勢を指導する立場ではないとしても、その誰かに対して信仰の良い影響を与えるように考えましょう。

ヨシヤは多くの偶像を取り除きましたが、これほどのものがユダの国にあったとは、改めて驚くばかりです。これらは長年に渡って少しずつはびこって来たのでしょう。人々はおそらく慣れっこになってしまい、罪悪感がなくなっていたと思われるかもしれません。これはまさに私たちの信仰のようです。もしかしたら自分でも感じなくなっている部分に、不信仰や偶像が巣くっているかも知れませんから、注意が必要です。

「アシェラ像を…粉々に」とあります。主のみにこころに反するものが分ったなら、手心を加えずに徹底的に取り除きましょう。そうすれば聖霊がもっと働いてくださり、すばらしい神様の栄光を見せていただくことができます。それを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 水曜

列王Ⅱ

23:10 彼はベン・ヒノムの谷にあるトフェトを汚し、だれも、自分の息子や娘に火の中を通らせてモレクに献げることのないようにした。

23:11 それから、ユダの王たちが太陽に献納した馬を、【主】の宮の入り口、前庭にある宦官ネタン・メレクの部屋のそばから取り除き、太陽の車を火で焼いた。

23:12 王は、ユダの王たちがアハズの屋上の部屋の上に造った祭壇と、マナセが【主】の宮の二つの庭に造った祭壇を、そこから外して打ち壊し、砕いた。そうして、その灰をキデロンの谷に投げ捨てた。

23:13 王は、エルサレムの東、破壊の山の南にあった高き所を汚れたものとした。これは、イスラエルの王ソロモンが、シドン人の忌むべき女神アシュタロテ、モアブの忌むべき神ケモシユ、アンモン人の忌み嫌うべき神ミルコムのために築いたものであった。

23:14 また、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、その場所を人の骨で満たした。

23:15 さらに彼は、ベテルにある祭壇と、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムが造った高き所、すなわち、その祭壇も高き所も打ち壊し、さらに高き所を焼いて粉々に砕いて灰にし、アシェラ像も焼いた。

23:16 ヨシヤが振り向くと、山の中に墓があるのが見えた。そこで彼は人を遣わしてその墓から骨を取り出し、それを祭壇の上で焼き、祭壇を汚れたものとした。かつて、神の人がこのことを預言して叫んだ【主】のことばのとおりであった。

23:17 ヨシヤは言った。「あそこに見える石



碑は何か。」すると、町の人々は彼に答えた。「ユダから出て来て、あなたがベテルの祭壇に対してされたこれらのことを預言した神の人の墓です。」

23:18 王は言った。「そのままにしておけ。だれも彼の骨を移してはならない。」そこで人々は彼の骨を、サマリアから出て来たあの預言者の骨と一緒にそのままにしておいた。

23:19 ヨシヤはまた、イスラエルの王たちが造って主の怒りを引き起こした、サマリアの町々の高き所の宮もすべて取り除き、彼がベテルでしたのと全く同じことを、それらに対しても行った。

23:20 彼は、そこにいた高き所の祭司たちをみな、祭壇の上で屠り、その祭壇の上で人の骨を焼いた。こうして、彼はエルサレムに帰った。

ヨシヤの宗教改革は徹底していました。子どもを火で焼いて偶像にささげるというトフェトを使えないようにしました。また太陽を拝むための車も焼くなどしました。

何よりこれらの偶像が入り込んだのはソロモンの時代からであることも洞察し、その時代からの偶像の神々を壊し、汚し（すなわちこれを徹底的に壊滅させ）ました。偶像というのは単なる人の作り物なので、全く無力なのです。

「高き所の祭司たちをみな、祭壇の上で屠り」とあり、彼らを殺したことがわかります。敵しすぎるとも思われますが、異教の影響によって子どもを火で焼くという残酷な儀式が行われたことを考えると、当時としては止むを得ない措置といえるでしょう。

私たちの戦いは血肉に対するものではなく、霊の戦いであり、すなわち永遠の命に関するもので

すから、ヨシヤのような措置は必要ありません。しかし彼のように、主の前に偶像をきよめようと思うなら、真剣に徹底的にする必要があります。少しでもいい加減さや惜しむ思いで残していたら、それをサタンに用いられることになるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 木曜

列王Ⅱ



23:21 王は民全体に次のように命じた。
「この契約の書に記されているとおり、あなたがたの神、【主】に、過越のいけにえを献げよ。」

23:22 実に、さばきつかさたちがイスラエルをさばいた時代以来、イスラエルの王たちとユダの王たちのどの時代にも、このような過越のいけにえが献げられたことはなかった。

23:23 ただ、ヨシヤ王の第十八年に、エルサレムでこの過越のいけにえが【主】に献げられただけであった。

23:24 さらにヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム、偶像、それに、ユダの地とエルサレムに見られるすべての忌むべき物も除き去った。こうして、彼は祭司ヒルキヤが【主】の宮で見つけた書物に記されている律法のことばを実行した。

23:25 ヨシヤのようにモーセのすべての律法にしたがって、心のすべて、たましいのすべて、力のすべてをもって【主】に立ち返った王は、彼より前にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、一人も起こらなかった。

23:26 それにもかかわらず、マナセが引き起こした主のすべての怒りのゆえに、【主】はユダに向けて燃やした激しい怒りを収めようとはされなかった。

23:27 【主】は言われた。「わたしがイスラエルを除いたのと同じように、ユダもわたしの前から除く。わたしが選んだこの都エルサレムも、わたしの名を置くとやったこの宮も、わたしは退ける。」

23:28 ヨシヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴

代誌』に確かに記されている。

23:29 彼の時代に、エジプトの王ファラオ・ネコが、アッシリアの王のもとに行こうと、ユーフラテス川を目指して上って来た。そこで、ヨシヤ王は彼を迎え撃ちに行ったが、ファラオ・ネコはメギドで彼に出会った際、彼を殺した。

23:30 ヨシヤの家来たちは、彼の遺体を戦車に載せ、メギドからエルサレムに運んで、彼の墓に葬った。その国の民は、ヨシヤの子エホアハズを選んで油を注ぎ、彼の父に代えて王とした。

ヨシヤのようにきっぱりと偶像との関係を絶ちましょう。戦死は以外にも思えますが、当時の王としては名誉なものです。信仰があるからといって、苦難も死もないというわけにはいきません。クリスチャンにも苦難や死があります。しかし永遠の命の恵のゆえに、信仰を守り通し、主にある名誉を勝ち得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 金曜

列王Ⅱ

23:31 エホアハズは二十三歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。

23:32 彼は、すべてその先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

23:33 ファラオ・ネコは、エルサレムで王であった彼をハマテの地リブラに幽閉し、この国に銀百タラントと金一タラントの料金を課した。

23:34 それから、ファラオ・ネコは、ヨシヤの子エルヤキムをその父ヨシヤに代えて王とし、その名をエホヤキムと改めさせた。エホアハズは捕らえられ、エジプトに行き、そこで死んだ。

23:35 エホヤキムは銀と金をファラオに贈った。ただし、ファラオの要求するだけの銀を贈るために、この国に税を課さなければならなかった。彼は、ファラオ・ネコに贈るために、一人ひとりに税を割り当て、銀と金を民衆から取り立てた。

23:36 エホヤキムは二十五歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はゼブダといい、ルマ出身のペダヤの娘であった。

23:37 彼は、すべてその先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

【新改訳 2017】

Ⅱ 列王

24:1 エホヤキムの時代に、バビロンの王ネブカドネツアルが攻め上って来た。エホヤキムは三年間彼のしもべとなったが、その後、再び彼に反逆した。



24:2 そこで【主】は、カルデア人の略奪隊、アラムの略奪隊、モアブの略奪隊、アンモン人の略奪隊を遣わしてエホヤキムを攻められた。ユダを攻めて滅ぼすために彼らを遣わされたのである。【主】がそのしもべである預言者たちによって告げられたことばのとおりであった。

24:3 実に、このようなことがユダに起こったのは、ユダを主の前から除くという

【主】の命によることであり、それはマナセが犯したすべての罪のゆえ、

24:4 また、マナセが流した咎のない者の血のためであった。マナセはエルサレムを咎のない者の血で満たした。そのため【主】は赦そうとはされなかったのである。

24:5 エホヤキムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴史誌』に確かに記されている。

24:6 エホヤキムは先祖とともに眠りにつき、その子エホヤキンが代わって王となった。

24:7 エジプトの王は自分の国から再び出て来ることがなかった。バビロンの王が、エジプト川から大河ユーフラテスに至るまで、かつてエジプトの王に属していた全領土を占領したからである。

エホアハズ、エホヤキム（エルヤキム）、のことが記されています。ここにあるようにエジプトとバビロンの2大国のせめぎあいの中にユダ王国は翻弄されていました。これらの王たちは、信仰ではなく、外交的すなわち人間的な手法と偶像礼拝に明け暮れましたが、どちらも神を信頼しないという点においては同じです。

神を信頼しましょう。立場が弱いほど、主の強さに信頼しましょう。それが信仰です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 土曜

列王Ⅱ

24:8 エホヤキンは十八歳で王となり、エルサレムで三か月間、王であった。彼の母の名はネフシュタといい、エルサレム出身のエルナタンの娘であった。

24:9 彼は、すべて先祖たちがしたように、

【主】の目に悪であることを行った。

24:10 そのころ、バビロンの王ネブカドネツアルの家来たちがエルサレムに攻め上り、都は包囲された。

24:11 バビロンの王ネブカドネツアルが都にやって来たとき、彼の家来たちは都を包囲していた。

24:12 ユダの王エホヤキンは、その母、家来たち、高官たち、宦官たちと一緒にバビロンの王に降伏したので、バビロンの王は、その治世の第八年に、彼を捕虜にした。

24:13 バビロンの王は、【主】の宮の財宝と王宮の財宝をことごとく運び出し、【主】の神殿の中にあるイスラエルの王ソロモンが作ったすべての金の用具を切り裂いた。

【主】が告げられたとおりであった。

24:14 彼はエルサレムのすべて、すなわち、すべての高官、すべての有力者一万人、それに職人や鍛冶もみな、捕囚として捕らえ移した。貧しい民衆のほかは残されなかった。

24:15 彼はさらに、エホヤキンをバビロンへ引いて行き、王の母、王の妻たち、その宦官たち、この国のおもだった人々を、捕囚としてエルサレムからバビロンへ行かせた。

24:16 バビロンの王は、すべての勇士たち七千人と、職人、鍛冶千人からなる勇敢な戦士たちすべてを、捕囚としてバビロンへ連れて行った。



24:17 バビロンの王は、エホヤキンのおじマタンヤをエホヤキンの代わりに王とし、その名をゼデキヤと改めさせた。

24:18 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。

24:19 彼は、すべてエホヤキムがしたように、【主】の目に悪であることを行った。

24:20 実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、【主】の怒りによることであったのである。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

エホヤキムの後はエホヤキムが王となりました。バビロンの包囲に対して降伏し、ほぼ占領状態となりました。敵であるネブカドネザルは先ず、主の宮を略奪し、その後国の力である人材を奪って行きました。

サタンがクリスチャンを攻撃するときは、先ず主の宮を略奪するようにして主との交わりを攻撃し、その後人材を奪うように人格を攻撃してきます。これらから守られるのは、ただ信仰しかありません。主を信じて従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





25:1 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。

25:2 こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包圍されていた。

25:3 第四の月の九日、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。

25:4 そのとき、都は破られ、戦士たちはみな夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から出て行った。カルデア人が都を包圍していたので、王はアラバへの道を進んだ。

25:5 カルデアの軍勢は王の後を追い、エリコの草原で彼に追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。

25:6 カルデアの軍勢は王を捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところに彼を連れ上り、彼に宣告を下した。

25:7 彼らはゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺した。王はゼデキヤの目をつぶし、青銅の足かせをはめて、バビロンへ連れて行った。

25:8 第五の月の七日、バビロンの王ネブカドネツアル王の第十九年のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、

25:9 【主】の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。

25:10 親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁を打ち壊した。

25:11 親衛隊の長ネブザルアダンは、都に残されていた残りの民と、バビロンの王に降伏した投降者たちと、残りの群衆を捕らえ移した。

25:12 しかし、親衛隊の長はその地の貧しい民の一部を残し、ぶどうを作る者と農夫にした。

25:13 カルデア人は、【主】の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、【主】の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をバビロンへ運んだ。

25:14 また、灰壺、十能、芯取りばさみ、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。

25:15 また親衛隊の長は、火皿、鉢など、純金や純銀のものを奪った。

25:16 ソロモンが【主】の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。

25:17 一本の柱の高さは十八キュビト、その上の柱頭は青銅、その柱頭の高さは三キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一つの柱も、格子細工もこれと同様であった。

バビロンの王ネブカデネザルによって王となれたゼデキヤでしたが、結局そのネブカデネザルによって捕えられ、目をえぐられて捕虜となりました。彼もまた主に信頼しないで、主に反逆した王でした。

この世の力によって権力や地位を得たとしても、結局この世によって裏切られることとなります。主にしがたが、主からの信任を受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

